

役員所感

副理事長 小寺 裕

平成17年1月1日、1市6町7村の合併により、広大な面積を占める新しい上越市が誕生しました。多様な自然に囲まれた中に、北陸新幹線、高速道路、直江津港などのインフラが整備された上越市は、14の独自の文化を身近に感じられる魅力あるまちへと進化するポテンシャルを秘めています。しかし、未だ旧市町村単位での活動に終始し、そのポテンシャルを十分に発揮しているとは言えず、他の地方都市と同様に衰退が危惧されます。

このような期待感と危機感が交錯する上越市においても、様々な団体が地域の魅力発信に力を注いでおります。しかし、それらの活動はどのくらい効果的なものでしょうか。上越市は魅力的な資源を多く抱えておりますが、その地域資源や特産品はどこ地域や市場に対して優位性を発揮できるものでしょうか。まずは、上越市全体と各地域がしっかりとした戦略を持ち、それらを共有することが肝要です。この地域の課題に対して自分の事として真剣に捉え、理想を描き、その実現に向けて協働する同士が増えなければ明るい未来の実現はできません。経営資源を考える上で人・物・金・情報が重要とよく言われます。インターネットの発達により様々な情報が瞬時に手に入ると同時に、注文すれば欲しい物もすぐに手に入ります。クラウドファンディングにより資金調達も容易になりつつあります。ただし、利便性の代償として人のつながりばかりが希薄になったと感じる今だからこそ、人は地域の貴重な資源になりうると私は信じます。いまこそ、人のつながりという優位性を活かしたまちづくりを推進し、暮らしやすい地元として愛着を育む必要があります。

我々が正しい戦略を持ち、地域の先導役として弛まず行動し続けることが、多くの市民や団体を巻き込むことにつながるとともに、小さな水滴のようなきっかけが波紋のように市民運動として地域に波及し、我々が目指す理想のまち「上越」が現実すると確信します。